

平成28年度 学校経営方針

練馬区立光が丘夏の雲小学校
校長 牧野光洋

1 学校の教育目標とめざす児童像

(1) 教育目標

- 進んで学び 深く考える子供
- 思いやりをもって行動する子供
- 体をきたえやりぬく子供

(2) 目指す児童像

- 勤勉な子供
- ルールを守り、礼儀正しい子供
- 他者を思いやる子供
- 夢を育む子供

2 基本方針

教育活動の中心に児童をとらえ、その人権を尊重した教育を推進する。教職員は日々、研鑽に励み、専門性の習得、資質の向上、総力をあげ信頼される学校づくりを目指し全ての教育活動をとおして、教育目標とめざす児童像の具現化に努め、「子供の夢を育む学校」を目指す。

(1) 人権を尊重する教育

- ・ 個人情報保護
- ・ いじめの早期発見・解決（予防）
- ・ 児童理解に努め不登校・不適応など0（ゼロ）を目指す。

「子供の幸せ」を願い、その願いに立って計画・実践、評価、改善を推進する。

(2) 全教職員が心身とも健康で、使命感に燃え児童に夢を与えるために、一丸となる教職員集団を形成する。

- ・ 組織体として指導にあたり、家庭・地域と協働する。
- ・ 全教職員で知・徳・体の調和のとれた児童一人一人を育成する。
- ・ 研修を積み重ね専門性・人間性を高める。（一人一改革）

(3) 小中連携として、九カ年を見通した教育に努める。

- ・ 接続のポイントを探る。（中学校での授業内容、指導方法を把握する。）

3 本年度の重点事項 テーマ（伝える 伝わる！）

(1) 児童の個性を生かす指導を実践する。

- ・ 児童理解を充実させるため児童と接する機会を多くもち、児童からの情報を摂取し、その思いを理解し、その良さや個性・特性を見出して、伸ばす努力をする。

（コミュニケーション能力の向上、児童理解）

- ・ 体験的な学習の機会をとおし、多様な人間関係を育てる。互いに認め合い、高め合う経験をもたせる。（体験的な学習）
- ・ 各学年、学級では特色ある教育活動（自ら考え、学び、調べ、伝え、そして伝わる表現等の言語力を活かした）を工夫し、自立する児童を育成する。（言語表現活動）
- ・ 規則を守ることの意義を理解させ、自らを律することのできる児童を育成する。（自律）
- ・ 様々な体験学習などをとおして、キャリア発達の特徴を捉え、充実を図り、自分で課題を見出し、挑戦する気持ちを育成する。（キャリア教育の充実）
- ・ なつものくも音楽会、ミニコンサート、音楽集会、展覧会等の取り組みを通じて、豊かな情操教育を育み心に潤いをもたせる教育の実践。（情緒教育の推進）
- ・ 特別な支援や配慮を要する児童に対し、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育校内委員会を中心にスクールカウンセラー、心のふれあい相談員を活用し、全職員が共通認識に基づいたきめ細やかな指導を徹底する。

(2) 授業力を高め、わかる授業を実践する

- ・ 適正な「年間指導計画・評価計画」に基づく確かな学力の定着を図るための各教科の授業時数を確保し、授業規律を確立し、児童一人一人が真剣に取り組める習慣を身につけさせる。
- ・ 基礎・基本を押さえ、課題に正対する姿勢を育て、自分の考えを的確に伝える力を身につけさせ個々の学力を定着し、学力向上を目指した学習支援に取り組む。
- ・ 評価の観点を明確に提示し、学習目標を設定させ児童の学習意欲を引き出す。
- ・ 教職員は相互に授業を見せ合い、児童に魅力を感じさせる授業を研鑽する。

(3) 全教職員の連携・協力を図り、OJTを駆使した学校組織の活性化を推進する。

- ・ 校務分掌組織の業務を明確にし、教職員一人一人が自己の責任を果たす。
- ・ OJTの推進による校内研修体系の見直しを図り、組織を活性化する。
- ・ 機能的に職務に取り組むよう各部・各係間の連絡・連携を密にして、互いに協力する。
- ・ 諸会議の運営にあたり、議事進行の効率化を図る。
- ・ 各研修の充実を図り、公開授業を提供し、教員研修の一端とする。

(4) オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・ 各教科、領域の学習に関連し、4年後の大会についてその価値や意義を学び児童自ら関わる意欲を高める。
- ・ 体育的な活動および食育の充実、心身の健康と基礎体力の向上を図る。
- ・ 国際理解に関わる活動、外国語アドバイザー、ALTとの連携を密にして外国語活動を推進していく。
- ・ 道徳教育と連動させ、人権教育を推進する。

(5) 幼小中連携を通じて、幼稚園、小学校、中学校の流れのポイントを探る。

- ・ 練馬区の施策事業として、幼小中連携の責務を自覚し、小中九カ年を見通した授業の流れをつくり、小中相互の授業研究等を実施する。
- ・ 異年齢集団での活動「なつくもスマイル」を通して互いを認め合う思いやりと尊敬・感謝の心を育む。
- ・ 中学校の体験や紹介をとおして、中学校生活における興味・関心を高めさせる。

(6) 安心・安全で豊かな心を育む学校をつくる。

- ・ 挨拶を基本として心が伝わる学校づくりに努め、互いの言葉遣いに注意し、教職員と児童、児童と児童間で、心の交流に努め、豊かな心を育む。
- ・ 充実な相談体制を構築し、児童一人一人の悩みや思いを把握し、問題行動等の未然防止や早期解決を図る。
- ・ 校舎内外の緑化活動、校内や通学路等の危機管理を徹底させ安全性の向上に努める。
- ・ 危機管理と情報管理を徹底し、適切な対応をとる。
- ・ 日々「報告、連絡、相談」を徹底し教職員間の連携を密にし、災害・事故等への適切な対応ができる校内体制（教育計画の再確認と作成）を確立する。
- ・ 事案に対し正確な事実の時系列的に記録を残す。早期対応・解決に取り組む。
- ・ 個人情報等の情報管理に努め、その取り組みを保護者に知らせる。
- ・ 会計管理には厳正に当たり、常にコスト意識をもつ。

(7) 服務の厳正・信頼される学校づくりに努める。(服務事故0)

- ・ 教職員は、児童・保護者・地域との信頼関係に基づいた厳正なサービスを遂行する。
- ・ 教職員は、教育の専門職として進んで研修に励み、その資質向上を常に心がけ、保護者、地域からの信頼を得られる教育実践を積み重ねる。

(8) 家庭・地域社会との連携を強化する。

- ・ 教育活動を地域や保護者に公開し、その教育活動の内容や児童の状況について月刊の学校だよりやHPをとおして、保護者などに積極的に知らせ透明性及び信頼を高める。
- ・ 保護者からの要望や苦情等に対しては、誠意をもって速やかに対応する。
- ・ 教育活動に関し、必要に応じて保護者や関係諸機関などの連携・協力を求める。
- ・ 学校評議員会と連携し、学校評価や評議員および保護者、地域へ常に学校公開を基本とし、授業診断を行い授業力の向上を図る。